

Eureka V

六年制通信 No.32 平成30年2月3日(土)号

マシュマロ・テスト

人間の徳とか強さについて、ギリシアの昔には、それは男の場合強さであると考えられていました。英語の virtue (美德) の vir-はもともとラテン語では「男」「兵士」であって、要するに戦場における強さが即ち美德であると捉えられていたわけです。しかし敵を倒す強さは、何も武器を持って戦うことだけではなく、知力で持って勝つ

という場合があります。有名なギリシアの英雄オデュッセウスも、彼の放浪を謳った『オデュッセイア』の冒頭で「智謀にとめる英雄よ…」と紹介されています。力の強さへの賞賛はやがて知力の高さへの憧憬に変わっていきます。さらに、戦う敵を持たない平和な状態が訪れると、人間の強さとしては「克己」という概念が生まれます。これは自分との戦いに勝つことを言うのですが、考えてみると勝つのも自分だし負けるのも自分ということになって、何だかわけがわからないのですが、もちろん自分の欲望に打ち勝つ自制心があるかどうかを問題にしているわけですね。自分の欲求、とりわけ目先の欲求に打ち勝つ人間が、克己心のある人物と言うことです。ちなみに、例によって『明解』によれば、克己とは「自分のなまけ心や欲・邪念に打ち勝つこと」とあります。なるほど、その通りですね。

自分の欲求に負けない人間は、将来社会において成功する確率が上がるという研究があります。マシュマロ・テストと呼ばれる実験ですが、耳にしたことありますか。まだ就学前の子供を部屋に入れ、机の上にマシュマロを一つ置いておく。そして、今から 15 分間このマシュマロを食べなかったら後でもう一つあげるから辛抱して待っているようにと言って、子供を一人にしておく。食べずに我慢できた子もいたし、食べてしまった子もいたのですが、この実験の本当の狙いは、その後 20 年間にわたって行われた何百人という被験者の追跡調査なのです。ちなみに、我慢できた子は被験者の 3 分の 1 だったらしいのですが、この子たちは食べてしまった子に比べて社会的な地位も年収も優位に立っていたそうです。

マシュマロ・テストは我慢することの大切さを説くときによく引き合いに出される実験ですから、教育界では有名ですね。民族や年齢によって違いが出るのかという実験もあったように思いますが、興味のある人は自分で調べてみて下さい。

私はこの実験のポイントは、子供一人にしておくことだと思っています。これが複数だと全く実験にならないと思います。一人の時にどうするか、これは人間が最もその本性を試される場面ですからね。よく世間で成功した人たちが人の目を気にするな

とか言っていますが、それは間違いです。実際に私たちは周囲の目の中で生きているのですからね。そして周囲の目が私たちの行動を律してくれているのです。ですから、そのタガが外れた時、つまり全くの一人の時、この時に自分を律することができるか、その人そのものを量る指標になりえます。前に少し朝礼か何かで触れたかもしれませんが、漢籍に「君子は独りを慎む」という言葉があります。これは一人の時こそ自分を律しなければならないという意味です。立派な人間は一人の時でも道に外れた行いはしないものだ、ということですが、これは周りに人の目があれば道に外れないように行動することはやさしいことだと言っていることにもなりますよね。

ちなみに、マシュマロを食べずに我慢できた子は、15分間マシュマロを見ないようにしていたそうです。食べた子は見ていたらしい。我慢するにはその対象を、まるでなかったかのように振る舞うことが有効なのでしょう。これも面白いですね。今、ちょっと思い出したのですが、小林秀雄の禁煙の話です。長年の習慣で胃を悪くした小林が医者から禁煙を勧められて決意するのですが、その時持っていた煙草とライターをその医者から処分してくれるように頼んだところ、その医者が言うのですね。お前そんな根性じゃあタバコは止められないよ、いつでも吸える状態にしておいて、それで止めないと本物じゃないね、と。これを聞いた小林は感心して机の上にもいつでも煙草もライターも灰皿も用意して、その上で禁煙したのです。さすが小林秀雄だなあ。

先日のNHKプロフェッショナルを観ましたか。咬み癖のついた犬をなおす訓練の映像ですが、久しぶりにテレビに見入ってしまいました。その方が言っていました。犬にはまず、辛抱することを教えなければいけないと。でも、犬は自分の意志で辛抱強さを身につけようとはしないでしょうから、誰かが訓練しなければいけません、人間なら、自分で自分を辛抱強く育てることができますよね。

さて、話は変わります。実は前号で杉原千敏が道徳の教科書に載っているが、いいことしか書いてないから、これからも勉強をして彼のマイナス面からも学んでほしいと言いましたね。私は人間はもっと重層的にできていると考えていますから、池波正太郎の言う「人はいいことをしながら一方で悪いこともし、悪い奴が時に善を施す」を信じています。それで何人かの人に杉原のマイナス面とは何ですか、と聞かれました、私の、非常に私的な考えを書いておきます。彼は国家公務員です。訓令に違反するという事は国家の命令に背くことです。そのことの罪は消えません。私はそう思います。あの時代のあの立場にいて、訓令に背いてビザを出し続けた行為を尊いと思うことと、命令違反をしたこととは別のことです。ですから、私が杉原さんに対し惜しいと思うのは、彼が帰国後ただちに辞表を出さなかったことです。自分は間違っことをしていない、あれは国家の命令がおかしいのだと考えることと、命令違反を正当化することとは違います。むしろ堂々と辞表を出し、外務省を自ら去ってほしかった、そう思います。実はこれは、私がまだ若かった頃、公務員であった父と杉原さんの功績について話をした折、二人が出した一つの見解でした。父は、自分なら辞表を出すと言い切りました。ただ、これは私の考えですから、君たちは自分でもっと勉強を積んで、自分の考えを醸成してってください。